ＮＧＯ相談員による出張相談実施報告書

１．団体名
（特活）関西国際交流団体協議会
出張者：林泰子

２．企画名
「特定非営利活動法人京都海外協力協会３月例会」
（ＮＧＯ相談員：講演・セミナー）

３．実施日時
2013年3月1日（金）18時30分～21時

４．場所
ウイングス京都　京都市男女共同参画センター
京都中央区東洞院通り六角下る御射山町262

５．実施内容
特定非営利活動法人京都海外協力協会（KOCA）は毎月ゲストスピーカーを招聘して例会を開催し、青年海外協力隊経験者及び国際協力に関心がある一般市民に、国際協力の意義を広め、地元活性化に尽力してきた。
今回、林 NGO 相談員に対し、青年海外協力隊経験を含む国際協力分野におけるこれまでの経験と、当該分野経験者による多文化共生の取り組みをはじめとした日本社会への経験還元についてのテーマで、講演依頼があった。
当日はパワーポイントで講演の要旨を表示すると共に、これまでの任地での活動様子がわかる写真を用意した。また参加者との対話を盛り込みながら講演を進めた。講演内容のポイントは以下のとおり。

- 青年海外協力隊参加前の話と応募のきっかけ
- 青年海外協力隊員としての活動、任地で直面した現実等
- 帰国後の「逆カルチャーショック」
- 国連開発計画・カンボディア王国農村開発プロジェクトでの現場経験
- 英国の開発系大学院留学
- 国際協力・開発分野における人材育成業務
- 在外日本大使館において経済協力担当書記官として従事した経験
- 日本に帰国後、日本の地域社会を見直し、「足元」から行動していくことにシフトしていったこと
- 現在関わっている多文化共生分野での取り組みの紹介と、日本社会における移住女性と子どもたちが直面している困難について。
- 青年海外協力隊及び国際協力経験者の日本社会での可能性について

6．集客人員

＜合計＞

24名

＜相談者区分＞

①学生　3名　②社会人　4名　③大学生　3名　④不明　14名

7．所感及び効果

今回の参加者は大きく分けて、青年海外協力隊経験者（以下「JOCV・OV」とする）や何らかの形で途上国での国際協力に従事した経験を持つ人々で京都府内において一般市民として社会人生活を送っている人々と、学生もしくは若年社会人で今後国際協力の分野でキャリアを形成したいと考えている人々と、２つの特徴的な参加者層に分かれている。

JOCV・OVは、日本に帰国後一部が国際協力や開発分野に進むものの、大半の者が日本社会に戻り、所属団体に戻ったり、新たに就職活動を経て就職していく。しかしながら途上国での経験や語学を生かしたいと願う者は多く、また実際福祉やボランティア活動に従事する者も多い。今やJICAボランティア（JOCV及びシニア海外ボランティア）は3万6千人を超えると言われるが、日本社会での隠れたリソースと言えよう。今後こうした経験者を生かしていける取り組みが官民問わず積極的に展開されることが望ましい。

今回の講演で触れたように、日本に婚姻等で移住してきた女性やその子どもが直面している困難は、JOCV・OVの経験とは全く違うものではあるものの、異文化の中で2年間経験してきたJOCV・OVだからこそ支援に乗り出すべきではという意見も挙がった。今後それぞれが所属する団体や地域社会の中で実践されるもと期待したい。

一方、学生の参加者からは、アンケートに

・ いろいろな経験をへて「足元を見直す」という考えにもどってこられたというのがとても印象的でした。

・ 国際協力への関心が深まった

とのコメントが寄せられた。

（了）

相談員企画型出張サービス実施報告書

1．企 画 名：「ユニセフのつどい」
※出張形態：相談員ブース
2．出 張 者：今里拓哉（(公財)ＰＨＤ協会）

3．実 施 日：２０１３年3月１０日（日）１０：００～１５：００

4．場　　所：生活文化センター
（神戸市東灘区田中町５-３-１８）

5．対象者　：神戸市民

6．実施報告：

兵庫ユニセフ協会が主催する「第１１回　ユニセフのつどい」に NGO 相談員として相談ブースを設けた。この会は兵庫ユニセフ協会のボランティアの方々をはじめ、学生や主婦の方々など約１００名の参加者で賑わっていた。

イベントは１０時から１５時の５時間であったが、途中にユニセフ協会が実施したスタディツアーの報告会や福島の高校生による講演会などがホール内で行われたため、相談業務を実施できたのは実質３時間程度であった。その間に６人の相談者から約１５件の相談を受けた。

相談者は主婦や会社員や学生など、多岐に渡った。主婦の方からは主に PHD 協会の事業内容についての質問が主であり、PHD が募集している研修生のホストファミリーに関心を示され、日本でできる国際協力の形の一つとして紹介した。また会社員の方からは企業と NGO の連携についての質問が集中し、いくつかの具体例を紹介した。そして学生からは卒業後の就職先として NGO を希望しているため、その就職相談であった。そこでまず自分に合った団体を見つけることや、ボランティアやスタディツアーやイベント参加などを通してその団体と関わりを持つことなどを勧めた。

7．添付画像：

主婦の方からの相談を受ける様子

会社員の方からの相談を受ける様子

2013年3月26日

特定非営利活動法人　難民を助ける会

NGO相談員による出張サービス実施報告

1．企画名：　国際理解講演会

2．開催日時：　2013年3月14日　10：50～12：20

3．主催者：　新潟県立新潟商業高等学校

4．場　所：　新潟県立新潟商業高等学校　会議室（新潟市中央区）

5．出張者：　（正・副・その他）穂積武寛

6．参加者：　国際教養科2年生78名、教員4名

7．実施内容：

同校が国際教養科の2年生向けに実施した国際理解講演会において、「地雷・不発弾対策」をテーマとして約80分の講演を行った。本講演では、地雷・不発弾問題の特徴と現状、対人地雷禁止条約（オタワ条約）、クラスター爆弾禁止条約（オスロ条約）などの世界的な取り組みを紹介するとともに、当会がアフガニスタン、ラオス、スーダンなどで行っている活動を例に挙げながら、どのような支援活動が行われているかを紹介した。

同時に「自分たちにできることは何か」という問いかけを行い、他校での実践例などを紹介しつつ①関心を持ち、調べる、②調べた結果をまとめて発表する機会を持つ、③募金・チャリティバザーを実施したり、ボランティア活動などに参加してみる、などの方法があることを説明し、単なる知識吸収に終わることなく、具体的な協力活動に結び付けることの重要性を強調した。

8．所感

地雷の問題は日本国内には存在しないため、それが日常生活に与える影響を想像することが難しい。様々な例えを用いて、生徒が自分の問題として地雷・不発弾の問題を認識し、その解決に今すぐにでも、または将来的にも具体的に貢献し得るということを強調した。その結果、「国際協力という活動に興味が湧いた」、「将来、国際協力を仕事にしたいと思った」などの感想を生徒から得ることができた。

また、今回対象となった生徒は国際教養科に属しており、英語教育や国際情勢などに関する授業が重点的に行われている。今後、当会のカブール事務所（アフガニスタン）から、地雷対策に従事しているアフガニスタン人スタッフの来日が計画されており、担当教諭からは、今回の講演のフォローアップとして、来日時に生徒が英語でコミュニケーションを図れるような機会を作れたらよいとの提案があった。ぜひ実現に向け努力したい。

写真別添：講演を行う報告者

AAR

相談員企画型出張サービス実施報告書

1．企 画 名：「第17回　神戸国際交流フェア２０１３」
※出張形態：相談対応ブース

2．出 張 者：坂西卓郎（(公財)ＰＨＤ協会職員）

3．実 施 日：２０１３年3月１７日（土）１１：００～１７：００

4．場　　所：ハーバーランド　スペースシアター
（神戸市中央区東川崎町 1-3-3）

5．対象者　：兵庫県内に在住の日本人、外国人コミュニティを中心とした不特定多数、約 15,000 名が対象（昨年度実績）

6．実施報告：地域展開の取り組みとして兵庫県国際協力推進員の方と連携し、上記「第 17 回　神戸国際交流フェア 2013」にて相談員対応ブースを実施した。

今回は阪神・淡路大震災及び東日本大震災からの復興を願い「思いやりを神戸からつながろう世界へ」をテーマに 50 を超える国際協力・交流団体や外国人コミュニティなどが参加し、国際交流の輪を拡げるとともに、市民の方に外国の文化・伝統と神戸の国際化への理解を深めていただくことを目的として実施された。実際にも多様な国籍やアイデンティティを持つ参加者が集い、国際色豊かな場となっていた。

実際の相談としては国際力豊かな神戸の事情を反映し、様々な国に関する質問や国際協力イベントへの質問が相次いだ。また JOCV やシニアボランティアに参加したいという声も複数聞いた。近年、日常的には若者層の内向き傾向が指摘され、実際の現場でも感じることが少なからずあったが、今回のイベントにおいては全くそのようなことはく、海外に出て活動したい、アジアやアフリカの人たちに貢献したい、という声が強かった。このような経験から本フェアには海外への意識が強い方々の参加が多かったものと推測される。そこで相談対応としても実際に一歩を踏み出すために必要な実践的な情報などを伝えることを心がけた。

本イベントには初の出展であったが、兵庫県国際協力推進員の方とは有意義な交流ができたと感じている。実際に来年度には兵庫県西部にある佐用町などの連携を模索する打ち合わせなどもでき、今後も連携を進めていきたい。本出展を通して相談員、推進員双方に相互理解が深まったと思われる。今後も継続していき連携を深めていきたい。

７．添付画像：別紙に当日の様子を３枚添付

「第１７回神戸国際交流フェア２０１３」出張サービス「相談対応ブース」の様子①
兵庫県内の参加者の相談対応の様子

「第１７回　神戸国際交流フェア２０１３」出張サービス「相談対応ブース」の様子②、③
②今回は連携出展のため隣同士。当日も連携をしながら対応した。
③フェア全体の様子。来場者は約 10,000 名。